

平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会（第5回）

議事概要

日 時：平成31年1月30日（水） 14:00～16:00

場 所：奈良県文化会館 第2会議室

出席者：朝廣 佳子氏、今仲 進氏、魚島 純一氏、北口 照美氏、来村 多加史氏、
正司 哲朗氏、立石 堅志氏、寺崎 保広氏、中井 将胤氏、中村 孝氏、
名草 康之氏、増井 正哉委員長

概 要：多くの利害関係者がおられることにより、委員の率直な発言に支障が生じる恐れがあるため、平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会運営要領第4条に基づき、非公開で開催。

県より、別添資料により検討状況を説明。

歴史体験学習館の機能について意見交換。委員からの主な発言は以下のとおり。

○県より、別紙資料により検討状況を説明。

○主な意見の概要

①歴史体験学習館の施設、機能について

| 項 目 | | 内 容 |
|-------|----------|---|
| 機能 | | <ul style="list-style-type: none"> ・体験メニューは、朱雀門や第一次大極殿など、歴史体験学習館の敷地外も活用して展開を考えた方が良い。 ・外国人観光客は、衣装体験をして写真撮影をする等、非日常的な体験メニューを好む傾向がある。 ・体験施設は維持管理が大変。 |
| 諸室構成 | | <ul style="list-style-type: none"> ・計画段階で体験内容を検討しないと、建物の内容によって体験内容が制約を受ける。 ・体験メニューに応じた諸室構成は、実施設計段階での検討事項ではないか。 ・固定的ではなく、体験メニューに応じ、柔軟に稼働できる設営が良い。 |
| 意匠 | ランドマーク建物 | <ul style="list-style-type: none"> ・ランドマーク建物として、目立ち過ぎるのではないか。 ・都市景観の観点からも、大宮通りに面さず、都市空間に出ない、閉じられた空間である敷地の奥にある方が良い。 ・校倉造の規模感、意匠を感じられる空間にすることで、県内各地にある校倉造の紹介から、観光に繋げることができるのではないか。 ・正倉院正倉の床高2.7mは圧倒される。床下に入れる機会は限られており、規模感の体験という意味でも校倉式建物があっても良い。 ・色、素材も重要な要素。建立当時の白木の色と現代の褐色のどちらの色を参考にするかで全くイメージが異なる。 ・誤解されない配慮として、壁面素材を変えるだけでは復原的イメージの払拭は困難であり、配置の工夫も必要。 ・朱雀門ひろばの主役は朱雀門と考えている。 |
| 高低差処理 | | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、高齢者、車いす利用者に配慮し、急なスロープや階段、長距離の迂回路といった懸案事項を踏まえ、敷地内の高低差処理の方法を検討すべきでは。 ・意匠化建物の床高を2.7mより低くすることで高低差を緩和できるのではないか。 |
| その他 | | <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設との違いを簡潔に表現できる言葉(キャッチコピー、通称名等)があると、歴史体験学習館の役割が伝わりやすい。 ・朱雀門ひろばへのアクセス改善を検討する必要がある。 |